

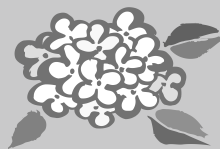


東京の会通信

No.230

2011年6月1日号
(毎月1回1日発行)

発行：公的骨髓バンクを
支援する東京の会
〒160-0005 東京都新宿区
愛住町23 Woody21-9F
TEL：03-3354-6377
(FAX兼用)



<http://www.marow.or.jp/tokyo/>
e-mail:marow_tokyo@yahoo.co.jp
定価 100 円

原発事故現場作業は 安全第一を遵守せよ！

■白血病の恐れは？

福島第一原発事故のテレビ放送を見ているとき、「白血病などの放射線障害が出て補償しないと労働契約書に書いてありました」という言葉が聞こえてきたので、驚いて画面に見入りました。作業者の顔は写されず、覆面を条件にインタビューに応じていました。日当3万円、仕事は福島原発の現場の瓦礫整理作業の募集に応募し、関西からやってきたとのことでした。いまだき1日3万円がもらえる仕事はなかなかない、それが多少の不安を振り払って就職した動機だったようです。

放射線障害が出て補償しないとの条項を労働契約に盛り込んだのは、雇用者が放射線障害の出る可能性を懸念し、補償を巡るリスクをあらかじめ避けるための手だてです。このような条項を入れても実際に作業者が被曝して放射線障害が発生すれば、労災保険上は元請も直接の雇用企業も責任を免れることはできません。労災保険でカバーされない損害については、使用者に環境測定不備など放射線被曝に対する安全配慮義務違反があれば民事上の損害賠償請求が可能です。

5月9日のマスコミ紙には、働き場所と仕事を宮城県での瓦礫運搬の運転手として募集し雇用された人が、実際には福島第一原発敷地内の原子炉冷却用水の取扱い作業に従事させられていた事実が報じられました。線量計を着用せず、1ヶ月も福島原発敷地内の作業に従事していたのです。福島原発敷地内の作業として募集したのでは、敬遠されて人が集まらないため、作為的に虚偽表示された職業安定法違反行為の疑いがあります。

福島第一原発事故が発生してから3週間ぐらい経ったとき、筆者のもとに電話相談してきた人がありました。チェルノブイリと同じように放射性物質が飛散してきたら、副作用で白血病やがんになるのが怖いと訴えました。その時点で得られる情報では、原子炉の冷却は順調に進んでおり、原子燃料のメルトダウンの心配はないということでした。筆者は、余り神経質にな

らないように、今回の事故はチェルノブイリと違いメルトダウンは起きていない、大事に至らず収束していただろうと答えました。相談者はその答えに本当かなと疑問を残したまま電話を切りました。

■正確な情報と注意深い対応を

福島第一原発では3月11日の大地震で稼働中の原子炉が自動停止したものの、その後何回か爆発音が響き、幾つかの炉の建屋の壁が吹き飛びました。そのような状況の中で、3月末になって各炉の中央制御室の照明が次々と復旧し、いよいよ収束へ進んでいけそうだと明るいニュースとして伝えられました。

しかしながら、その後の推移を見ると相談者の懸念が正しかったと思わざるを得ません。5月12日になって東京電力は福島原発1号機でメルトダウンが発生していたことを認めました。5月17日には2号機、3号機でもメルトダウンが起きていた可能性が認められました。これまで東京電力や保安院の公表する状況と比較して、周辺地域への放射性物質の飛散量が多いのではないかと、原発から30kmを超える地域の土壌の汚染が稲の作付け禁止となるような放射能汚染がなぜ起きるのだろうか、疑問に感じていたのですが、メルトダウンが起きていたとすると合点できるのです。

メルトダウンが正確にいつの時点で起きたのか我々国民には知らされていませんが、いろいろな状況判断から見て発生しているのは事実ですから、現場での放射性物質の分布は厳密に測定され、収束作業に携わる人たちの仕事については被曝がおきないように、安全第一が貫かれなければなりません。

そのためには作業場所での事前の放射能測定、各作業者の警報機付線量計着用が必須です。初めのころ津波で失われたため数が不足し、責任者だけに着用させ、作業員全員にはつけさせていなかったようですが、その後改善されたのでしょうか。

安全管理には手抜きは許されません。新しい作業員を入職させるときには作業に対応する健康診断と入職

教育が必要です。緊急対策作業は平時の定型業務と異なり、異常現象が次々と現われ、それに注意深く対応していく必要があるため、熟練作業者を配置することが必要です。また、広い範囲でいろいろな作業を安全に進めるためには、相互の密接な連携が必要であり、各作業グループは他のグループの安全を損なうことのないように配慮が必要です。

■被曝者を出さずに一日も早い収束を

今回のような緊急事故収束作業においては、多くの人手を必要とするため未熟練者でも配置せざるを得ない場合や、入職訓練を十分実施せず、あるいは保護具を十分貸与せず入職させるケースが起こりうるでしょう。安全管理の王道は、未熟練者ほど教育訓練を十分に行い、必要な保護具を貸与してその正しい使い方を教え、不安全行動が起こらないように熟練監督者の指導の下に作業を進めることが必要です。

東京電力のような日本でも有数の大企業の現場作業においては、元請の下に一次下請け、二次下請け、三次下請け等、重層下請け契約があるのが普通です。冒頭の作業はおそらく、何次かの下請け契約で仕事を請け負った業者が雇用した作業者ではないかと思われる。

重層下請け契約の下層で、実際に現場作業に携わる作業者の雇用主の企業は中小企業が多く、労働契約の

不備不履行があったり、労災事故が発生した場合には労基法上の元請加入の労災保険で処理する原則がまもられず、下請け企業に処理を任せられる事例が起こりやすいのです。このような場合に労災事故の被災者に法律の知識が不足していると、不当な取扱いを受ける可能性があるため注意が必要です。

メルトダウンが発生したことにより、福島第一原発の現場の放射線環境は当初の判断より悪化しているようです。収束の工程も大幅に延長されることになりそうです。周辺住民の皆さんが住まいを離れて避難を強いられ、いつ戻れるかも分からない状況が続きます。

現場作業環境がいよいよ厳しさを増す中で、収束作業に従事する東京電力の社員、協力会社の社員、自衛隊や各地から支援派遣された消防隊員の皆さんの緊張感とご苦労はいかばかりでしょうか。一つ間違えると被曝を受けかねない危険な現場にご家族を送り出すご家庭の皆さんのご心労も、大変なものとお察しいたします。

このような事態の収拾に当っては、現状がどのような状況にあるのか、どのように対処されているのか、見通しはどうかなど、全体についての情報が操作されることなく公表され、国民の理解信頼と協力を得ることが何より大切です。福島第一原発事故がこれ以上拡大悪化することなく、一日も早く収束できますよう心から願っています。
(新田恭平)

苦しみを乗り越えれば必ず自分の強さとなる

今回の東日本大震災は、骨髓バンクを応援するボランティア仲間の生活にも牙を剥きました。以前、東京の会通信56号(1996年12月)で「患者からのメッセージ」に登場して下さった菊田としえさんは、その後2001年4月に、ご本人同様骨髓移植を受けて元気になられた志賀正弘さんと結婚し、現在も骨髓バンクのボランティアとしてご夫婦で仲良く活動されています。ボランティア全国大会などでお会いすると、いつも元気に話しかけてくれます。今回の震災では、ご自身も被災されましたが、ご両親と義理のお姉さんを津波により亡くされるという大変つらい体験をされました。

骨髓バンクを応援する仲間として、志賀さんを始めとする東北地方の被災者の方々に、今後どのようなサポートができるか、身近な方の体験を知ることでも気持ちに寄り添いたい、そんな思いから今回、志賀さんが、あるメーリングリストに投稿した内容を転載させていただくことにしました。

* * * * *

皆様こんにちは、福島の志賀とします。

震災後ご連絡をいただいていた皆様、そしてご心配をいただいていた皆様、本当にありがとうございます

た。ちゃんとお返事もせずに、大変申し訳ありませんでした。

今、住んでいるいわきの小名浜という地域は、3月11日の地震の影響で津波にも襲われ、私たちの自宅も海から200メートルぐらいしか離れていないので床上浸水しました。その後掃除をすれば住める状況にはなったのですが、今度は50キロほどしか離れていない東京電力の原発問題で追い打ちをかけられました。今一緒に生活をしている4歳の子供のことを考えると、見えない放射能という敵からこの子を守らなければ……と思い、福島県内の浅川町という所で4日間過ごし、どうにかガソリンを入れてから埼玉の大谷さんのお母様のお宅をお借りして避難をさせていただいてきました。

埼玉にいた間は、すべての出来事から現実逃避できているようで幸せでした……。

震災後、皆さまには宮城の気仙沼の私の家族の安否についてもご心配をおかけしました。残念ながら、実家は津波によりあとかたもなく流され、父、母、義理の姉の3人が逃げ切れず津波にのまれ命を奪われました。

父は3月18日に発見され22日に火葬致しました。その後、義理の姉が3月24日に発見され4月6日に火葬。そして、自衛隊による遺体捜索強化最終日の4月2日に長崎県の自衛隊の方に母を発見していただき、4月15日に火葬をしてあげることが出来ました。

昨年9月の裏磐梯で開催した患者とドナーの同窓会にも母は参加してくれました。私の闘病では一番近くで私の命を守ってくれた母でした。火葬の時には大声で泣きました。子供のように泣きました。笑顔で送ってあげることなんてできませんでした……。

なんでこんなことに……。

でも、今だに半数以上の方が行方不明の中、家族3人発見され火葬出来たことは奇跡だと菩提寺のお坊さんがおっしゃって下さいました。

でも、心の準備がないままに、失ったものはあまりにも大きすぎて、この悔しさ、悲しみ、絶望感をどう受け止めればいいのか、時間が経つほどに複雑になってきて、心の奥底にぽっかりと空いた穴をどう埋めて行ったらいいのか、自分の中でまだ心が落ち着かない状況です。でもきっと悲しみ続けることを3人は望んではないと思うので、少しずつでも前に進もうと思います。気仙沼に一人残された兄を、仙台の姉と支えながら兄妹で乗り越えて行こうと思います。

実家の菩提寺も津波の被害を受けましたが、緊急で補強修理をしたようで、4月27日に身内と親戚だけで

3人の合同葬儀を行うことになりました。花輪もあげられませんし供物などもあげられません。実家のお墓は海の目の前にあり、浸水したため、納骨をしてあげることも出来ません。一般的な葬儀とはかけはなれた形になってしまいますが、無事に成仏してくれるように身内で送ってあげようと思います。

これまでの経過のご報告が遅くなり、本当に申し訳ございませんでした。

“苦しみを乗り越えれば、必ず自分の強さになる”

いつも講演で私が伝えてきた言葉です。またこれを自分で実践して行かなければ……

心からの笑顔を作るにはもう少し時間がかかりそうですが、必ず乗り越えます！乗り越えてみせます！！それが私にとっての最高の父、母、大好きだったお義姉ちゃんへの恩返しだと思うので（＾＾）

またみなさんに元気な姿でお会い出来ることを願い、一日一日過ごして行きます。

人と人との繋がりに、これほど感謝出来るのは、今私が生きているからです。残された者がやらなきゃいけないこと、伝えていかなきゃいけないことを考え、行動して行きます。

みなさん、いろいろな形で支えていただき本当にありがとうございました。そして、これからもどうぞよろしく願いいたします。

志賀としえ

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (平成23年4月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	381,470	53,524	32,753
4月登録分	2,048	272	195
4月抹消数	1,040	135	—
実質登録増	1,008	137	—

患者とドナー登録・適合状況(4月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	497,988人
ドナー登録抹消者数(累計)	116,518人
有効二次検査済ドナー数	381,170人(4月1,014人増)
二次検査適合ドナー数(累計)	242,958人
実質登録患者実数(現在)	2,660人(国内1,446人)
HLA適合患者数(累計)	26,597人(患者累計数の81.2%)
非血縁移植実施数	12,871例(4月実施92例)

東京の会 「6月定例会」 のお知らせ

6月18日(土)午後5時30分より
会場：全労済東京・レインボー会館3階会議室
※新宿駅下車7分(新宿区西新宿7-20-8)
※西新宿駅下車1番出口徒歩2分
青梅街道新宿警察署きらやか銀行の角入ってすぐ右側

※7月定例会予定・7月16日(土)午後5時30分より
定例会は毎月第3土曜日午後5時30分 から開催しています。

新しい方大歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしております。

7月会報発送 「おりおり」 のお知らせ

7月2日(土)13時00分より
※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。
場所：品川運輸・4階会議室(品川区東大井2-1-8)
JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分
※今お読みになっている「東京の会通信」を約1000部折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。
※8月「おりおり」予定・8月6日(土)13時00分より

野球部第2章 初戦 試合報告

4月29日（みどりの日）、東京の会野球部・バガボンドの活動第2章がスタートしました。場所は東村山市にある製薬会社のグラウンドです。みんなの久しぶりにボールを追いかける姿は華麗に軽快とはいかないものの、汗と土でユニフォームを汚して走りまわりました。

月日の経つのは早いもので、名川晃太君（元患者、小学生の時にさい帯血移植）は高校生になっていて、この日はセカンドの守備で元気よく打球を捌いていました。初参加の事務局長・保居さんは体で打球を止め、サードへの走塁ではヘッドスライディングをするなど気迫あふれるプレーでみんなを盛り上げていました。キャプテンシーはさすがであります。

また近所にお住まいの東京の会・櫻井さんが、スポーツドリンクを持って陣中見舞いに駆けつけてくださり、メンバーとキャッチボールをして過ごしていました。グラウンドを見つめる風貌は監督そのものの様相でした。



監督を囁望される櫻井さん

草野球を通して仲間が集まり、一生懸命にボールを追いかけて遊び、これからの骨髓バンクPRなどができればと思います。チームのムードメーカーの和泉屋選手（元患者）は残念ながら参加できませんでしたが、次回に向け、素振りをして体づくりをしておくとの連絡がありました。期待して待っております。

試合結果は、3回にピッチャー鈴木の突然の乱調でフォアボールを連発。4-9のスコアで負けてしまいました。しかし、ブランクを感じさせないプレーが随所に見られ、次回に期待がもてます。

まもなく東京の会の新キャラクターが誕生します。

そのキャラクターが「命のキャッチボール！ 骨髓バンク&さい帯血バンク」と伝えるのぼり旗を作成しようと考えております。応援の程、宜しくお願い致します。

最後に、東京の会でも時々活動していた野球部員の宮平さんが、この日ドタキャンしました。理由は、この日の朝、一児のパパになったからです。野球部の再出発の日にめでたいことであります。（大橋一三）

バガボンド野球部初参加 ー愉しかった！ー

大橋さんにお誘いいただき、バガボンド野球部に初めて参加しました。野球は小学校以来で、久しぶりのプレーはエラーばかりのものになってしまいました……。

ただ回を追うごとに、東京の会・名川さんの気迫あふれる熱いプレーに、自分自身もどんどん熱くなっていきました。デッドボールによる出塁後の3塁への走塁では、大橋さんの「突っ込めー」の掛け声とともに、思わず3塁ベースへ頭から突っ込んだほどです。

また、今回チームメンバーが不足したため、相手チームから2名の高校生にバガボンドチームでプレーしてもらいました。大人たちの熱い気持ちばかりが先行するプレーとは対照的に、クールで華麗なプレーを披露していました。そして、非常に礼儀正しい好青年でした。試合後記念写真を一緒に撮り、我々チームの遊び方・骨髓バンクへの思いを話して、野球を通じての交流ができてよかったと思います。

今から次回が楽しみです。次回はホームランを打ちます！（保居範昭）



チームバガボンド（イケメン高校生、土屋君、田中君含む）

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2011.4.16~5.15)

村上 昌子さん 2,000円／笠間 義男さん 7,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

天晴れ! チームバガボンド

4月29日、アルバイト先の居酒屋、バガボンドの店長である大橋一三さんのお誘いで、草野球チーム「バガボンド」の試合に参加することとなりました。小学校から十年余り続けた野球に自信があった私は、ピッチャーとして出場することとなりました。久しぶりに立つマウンドから、キャッチャーミットまでの距離が果てしなく遠く感じ、結果私の一人相撲が祟り、大敗してしまいました。しかし、チームバガボンドの気迫は凄まじく、年齢を感じさせない大人たちのガッツが、グラウンド上で炸裂していました。特に、野球経験の少ない保居さんのヘッドスライディングには、高校球児の甲子園決勝九回裏ツーアウトの場面の100倍感動しました。

さあ、保居さんの野球に対する果てしない情熱を見習い、これからランニングしてきます。(鈴木隼人)



ヘッドスライディングが実ってホームイン!

第22回東京の会定期総会のお知らせ

東京の会の活動方針を確認する定期総会を、6月25日(土)に西新宿の全労済東京会館会議室にて実施します。定期総会後には、東日本大震災の後、財団・さい帯血バンクネットワーク・全国協議会がどのような対応をしたのか、医療機関と被災地はどのような状況であったかを報告いただき、今後の危機管理対応についてどのようにしていくべきかのパネルディスカッションを実施します。

どなたでもご参加いただけますので、お誘い合わせの上、是非ご来場下さい。

日程: 6月25日(土) 13:00~17:00
会場: 全労済東京会館(東京都新宿区西新宿7-20-8)
内容: 定期総会

2010年度活動報告および会計報告
2011年度活動方針・宣言・役員改選
新キャラクターご紹介
震災シンポジウム「東日本大震災の教訓と今後の危機管理対応について」
第一部 震災対応報告
第二部 パネルディスカッション

東京の会10周年記念出版 『もう一人の私』

患者とドナーからのメッセージを中心に、骨髄バンクの10年を東京の会通信の視点でつづる評判の1冊。
本屋さんでは取り扱っていません。
あなたもお読みください。



お申し込みは

東京の会へ

売価: 1500円
送料: 300円
10冊で12,000円(送料込)

患者家族電話相談
白血病フリーダイヤル

やまいこくふく
0120-81-5929
毎週土曜日10:00~16:00

※第2・4土曜日は血液専門
医も相談に応じます。
※医師に言えない悩み事など
もどうぞ。

編集者

雑記



▼日本中いや全世界を震撼させた、東日本大震災から2か月半が経ちました。未だかつて経験したことのない津波の映像とともに、日々伝えられる被害状況の拡大と、それにもまして福島原発の被害も想像を絶する事態です。5月21日現在の震災被害者は、死者1万5170人、行方不明者8857人、避難者10万9561人となっています。

▼都内でこの地震に遭遇した私でさえ、生まれて初めて体験する揺れの大きさに怯え、窓ガラスが割れたり書棚が倒れたり携帯が繋がらなかつたりと、本当に不安な日々を過ごしたのですから、震源地に近い場所の方々のことを思うと、心が締め付けられるばかりです。東北地方の方々の安否を気遣う日が続きました。

▼そんな中、仲間である宮城骨髄バンク登録推進協議会（石巻・気仙沼支部）のボランティアの皆さんが、多大な被害を被られたとういう報が入りました。残念ながらご本人が亡くなられたとの連絡があり、本紙今月号に掲載の志賀としえさんをはじめとして、ご家族を津波で亡くされてしまった方々もいらっしゃいました。代表の小野さんご夫妻は地震で家が倒壊しました。津波による家屋流出や損壊により自宅に住めなくなり避難所生活を余儀なくされている方々もいます。みなさん一瞬にして今までの生活が足元から崩れ去った信

じられない状況です。

▼宮城の会から、宮城の会のボランティアで今回被災された方々に届けるためのお見舞金を募るとお話があったため、定例会にて事情を説明し東京の会有志でお見舞金をお送りしました。発起人一同様より丁寧なお礼状と、今回の呼び掛けに111名が支援し総額148万円を15組の被災者へ贈呈したこと、すべての方から深甚なる感謝の念をお伝えしたいと報告されました。被災された宮城の会の方々は不自由な避難所生活の中でも、お互いを気遣って明るく前向きに生活されているとのこと、1日も早い復興を願わずにはいられません。

▼これだけの被害をもたらした東北地方太平洋沖地震です。その被災時に骨髄移植が決まっていた患者は大丈夫だったのか、ドナー候補や医療機関への影響がなかったのか、輸血や薬を欠かせない患者に問題はなかったのか、いろいろな疑問が生じました。1ヶ月遅れの4月の定例会では、再び震災が起こった時、上記のような懸念が現実にならないために、ボランティアの私たちには何ができるのか話し合う場が欲しいとの意見が出ました。そして急きょ、6月に開催する総会後のイベントで、「震災シンポジウム」と題し、各組織の代表を招いて震災時の現況を知り、今後の危機管理対応について考えてみることとなりました。

▼6月25日13時からの東京の会総会終了後、上記危機管理対応についてパネルディスカッションをおこないます。すでにお知らせのとおり、全労済東京会館3階会議室でおこないます。ぜひ多くの方々のご参加をお待ちしております。

(A)

東京ドナー登録会予定(6月)

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------|
| 6/ 6 (月) 明治大学 リバティータワー (千代田区) | 6/18 (土) 帝京大学医学部附属病院 (板橋区) |
| 6/ 6 (月) 自衛隊中央病院 (世田谷区) | 6/18 (土) 東小岩小学校 (江戸川区) |
| 6/ 9 (木) 八重洲ファーストフィナンシャルビル (中央区) | 6/19 (日) 松竹駐車場 (しゃれなあと) (世田谷区) |
| 6/11 (土) 瑞江駅北口・南口 (江戸川区) | 6/21 (火) 福生市役所 (福生市) |
| 6/14 (火) 小岩駅 (江戸川区) | 6/28 (火) 荒川区役所 (荒川区) |
| 6/15 (水) 赤羽駅東口 (北区) | |

ご寄付と会費の納入、そして絵はがきや書籍・テレホンカードの購入は郵便振替にてお願いいたします。皆様からの善意をお待ちしております。

ボランティアの運動にも資金が必要です。 東京の会に活動資金のカンパを!

郵便振替口座番号
加入者名義

00100-1-555195
公的骨髄バンクを支援する東京の会